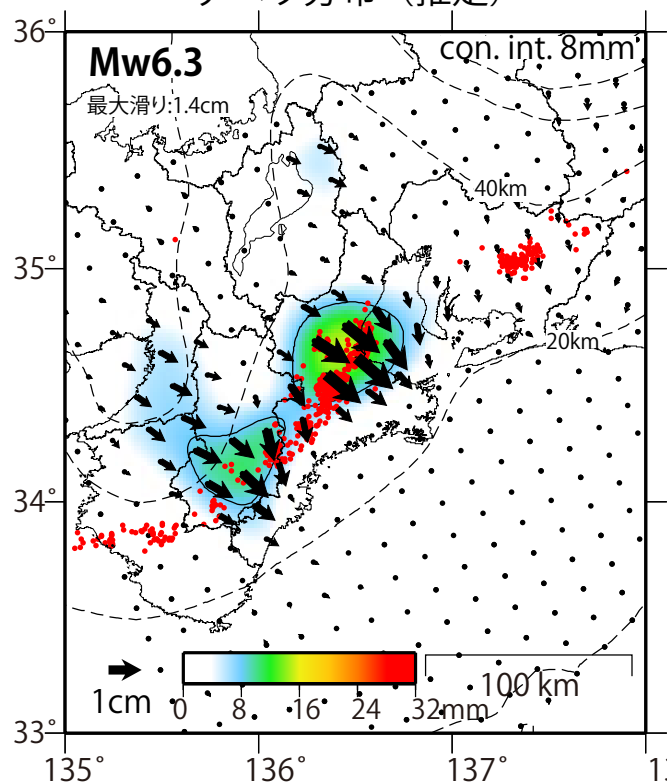
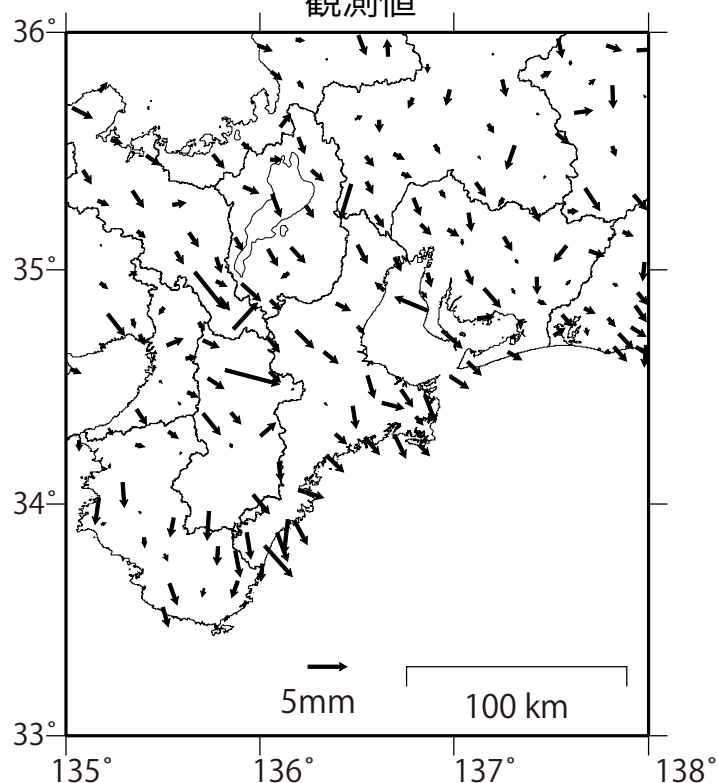


# 奈良県から愛知県の深部低周波微動と同期したスロースリップ

2018/9/16-10/12  
すべり分布（推定）

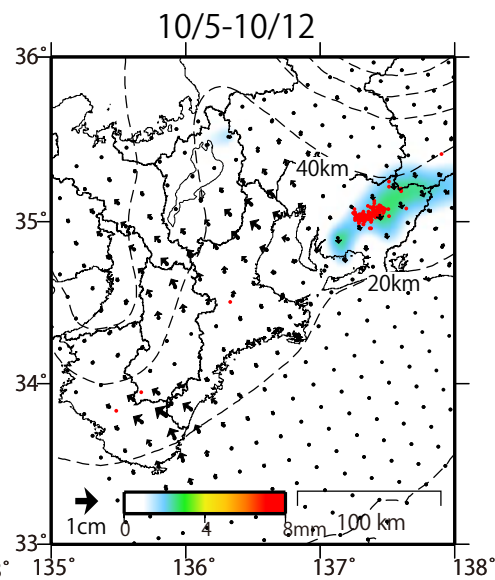
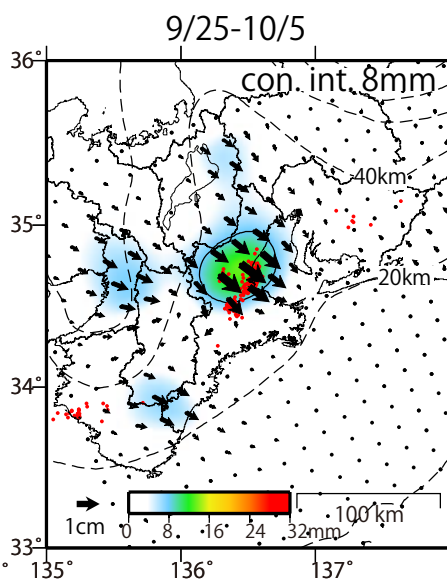
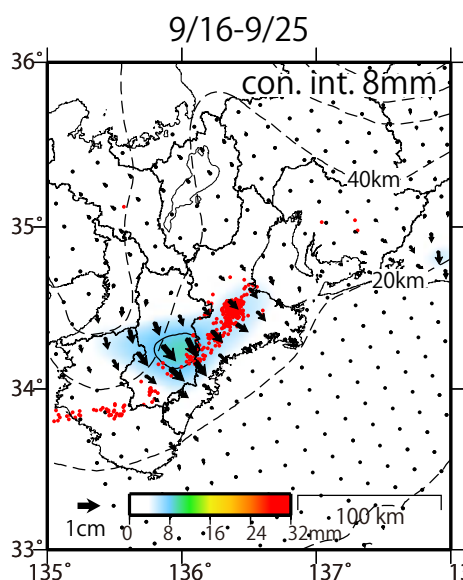


観測値



全体としての併進を除き、9/10-16の平均と  
10/12-22の平均の差をとった値

## 期間ごとのすべり分布（推定）



\*カラスケールが異なる

データ:F3解

トレンド期間:2018/3/16-9/16

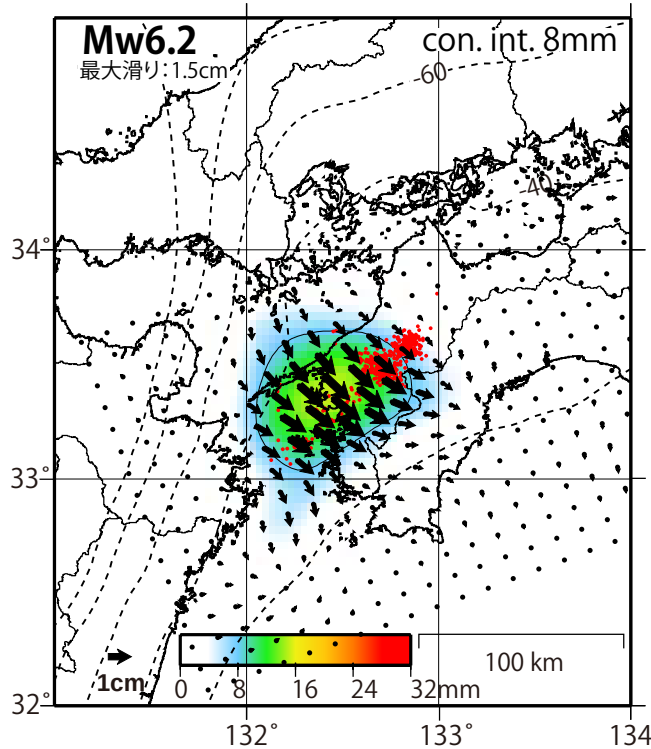
黒破線:フィリピン海プレート上面の等深線 (弘瀬・他、2007)

赤丸:低周波地震 (気象庁一元化震源)

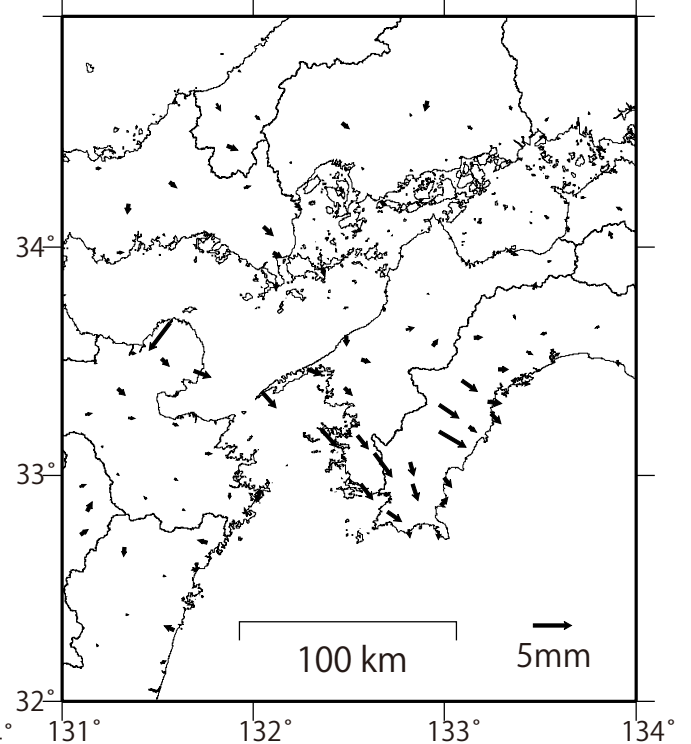
# 四国西部の深部低周波微動と同期したスロースリップ

2018/9/26-10/10

すべり分布 (推定)



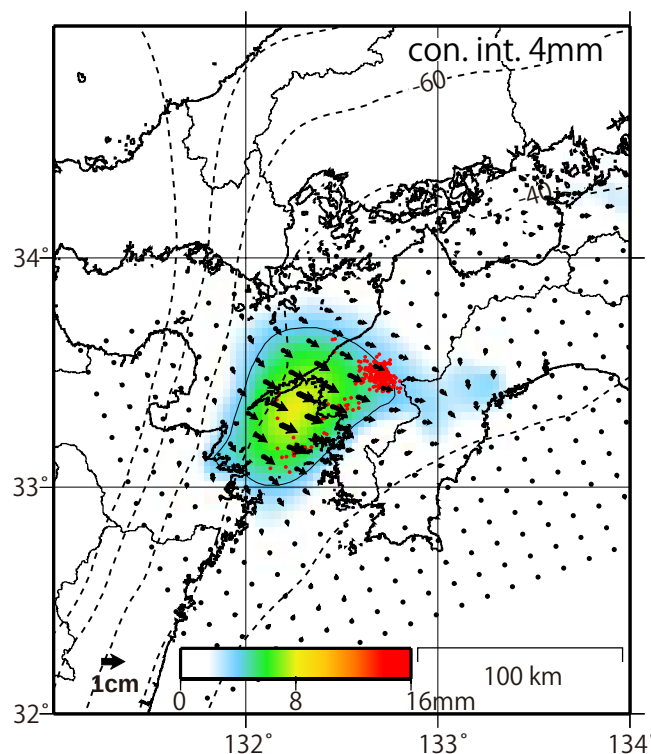
観測値



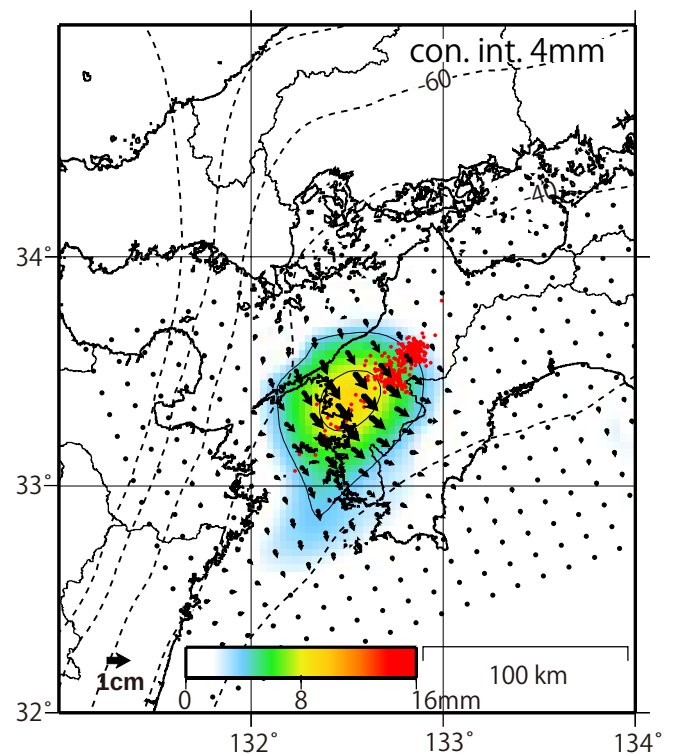
全体としての併進を除き、9/16-26の平均と  
10/10-20の平均の差をとった値

期間ごとのすべり分布 (推定)

9/26-10/3



10/3-10/10



データ:F3解

トレンド期間:2006/1/1-2009/1/1

黒破線:フィリピン海プレート上面の等深線 (弘瀬・他、2007)

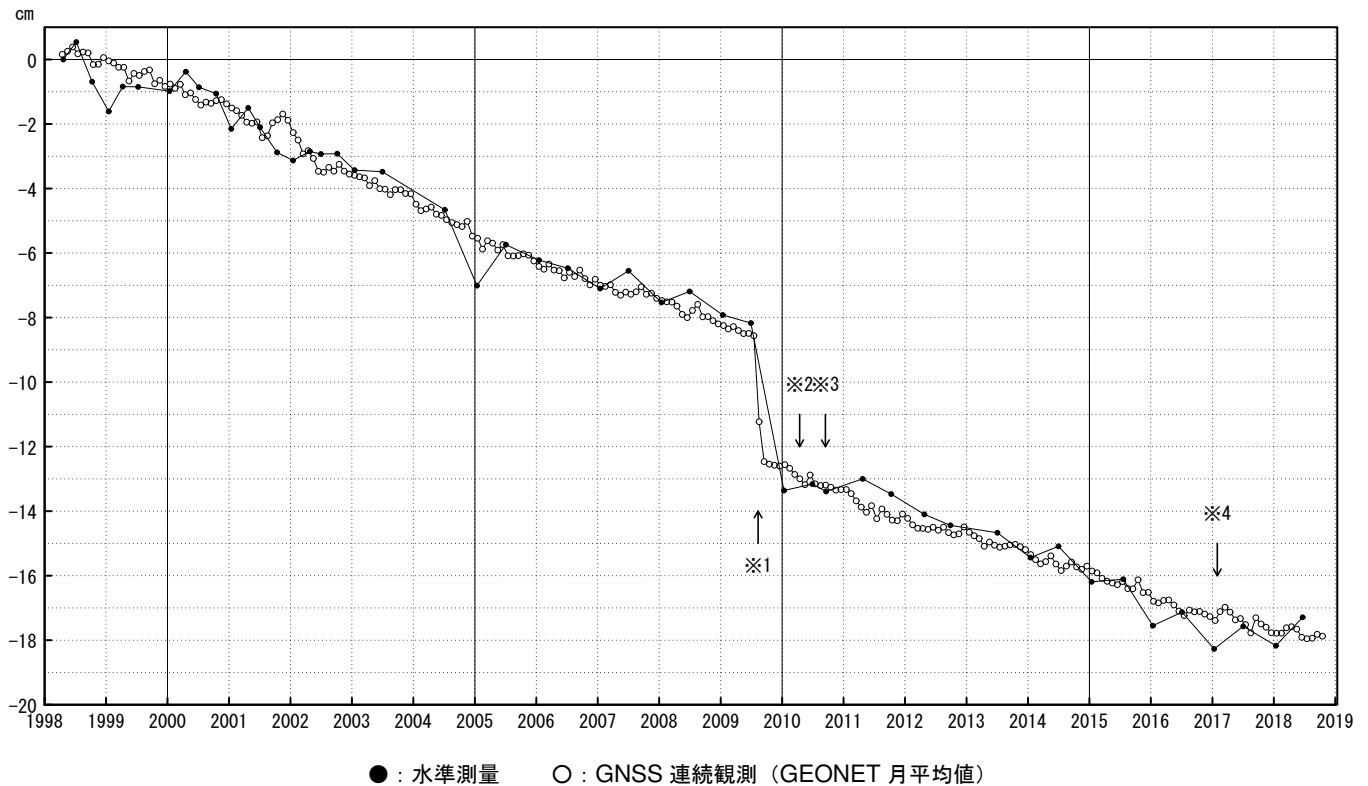
赤丸:低周波地震 (気象庁一元化震源)

# 御前崎 電子基準点の上下変動

## 水準測量と GNSS 連続観測

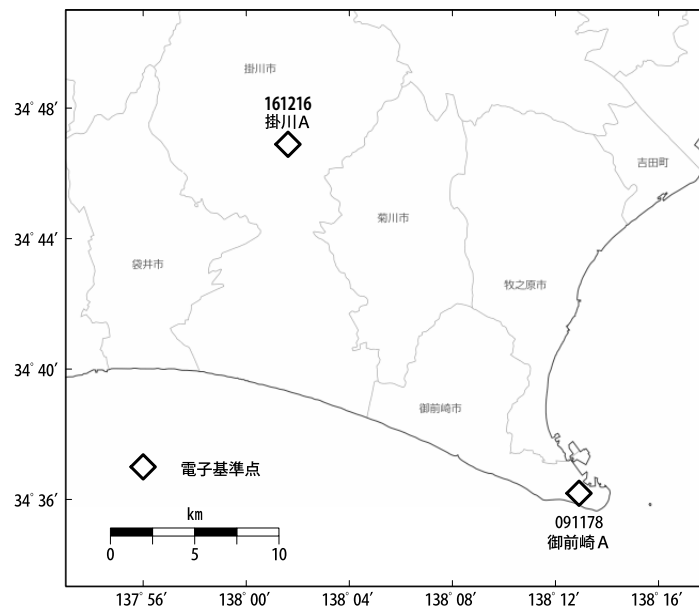
掛川に対して、御前崎が沈降する長期的な傾向が続いている。

掛川 A (161216) - 御前崎 A (091178)



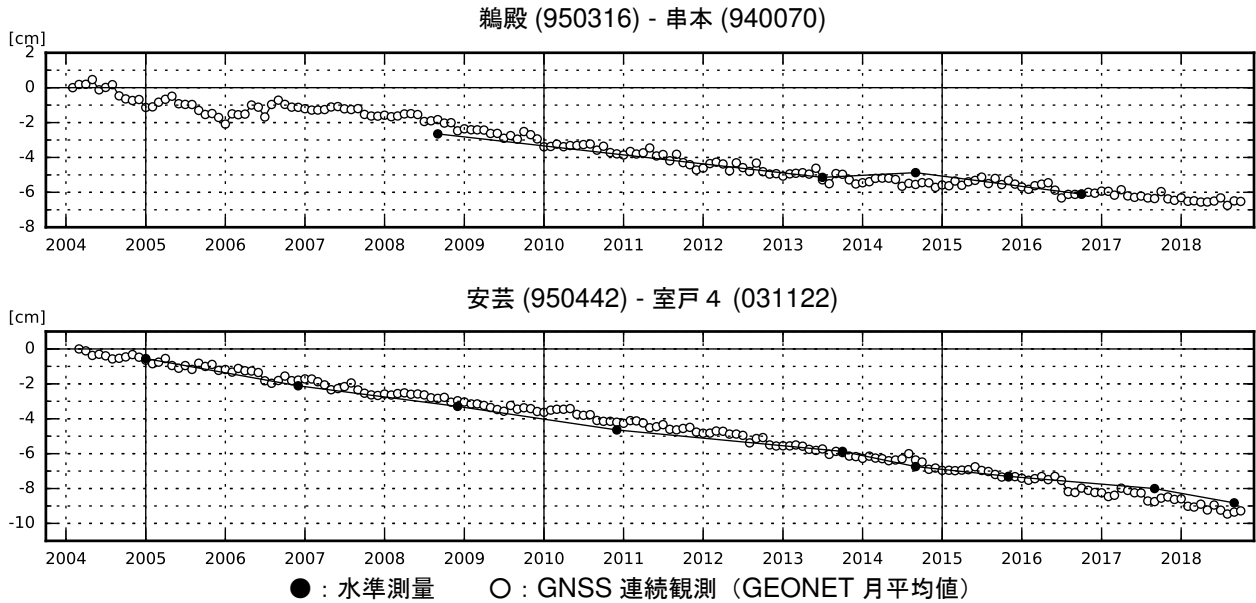
・ 最新のプロット点は 10/01~10/13 の平均。

- ※1 電子基準点「御前崎」は 2009 年 8 月 11 日の駿河湾の地震 (M6.5) に伴い、地表付近の局所的な変動の影響を受けた。
- ※2 2010 年 4 月以降は、電子基準点「御前崎」をより地盤の安定している場所に移転し、電子基準点「御前崎 A」とした。上記グラフは電子基準点「御前崎」と電子基準点「御前崎 A」のデータを接続して表示している。
- ※3 水準測量の結果は移転後初めて変動量が計算できる 2010 年 9 月から表示している。
- ※4 2017 年 1 月 30 日以降は、電子基準点「掛川」は移転し、電子基準点「掛川 A」とした。上記グラフは電子基準点「掛川」と電子基準点「掛川 A」のデータを接続して表示している。

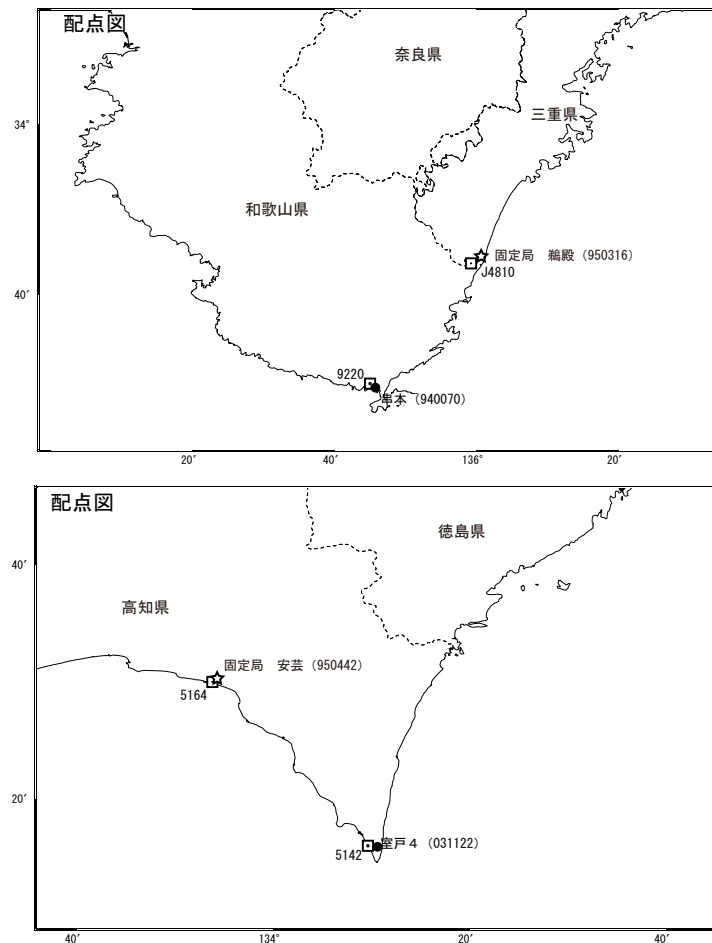


## 紀伊半島及び室戸岬周辺 電子基準点の上下変動

潮岬周辺及び室戸岬周辺の長期的な沈降傾向が続いている。

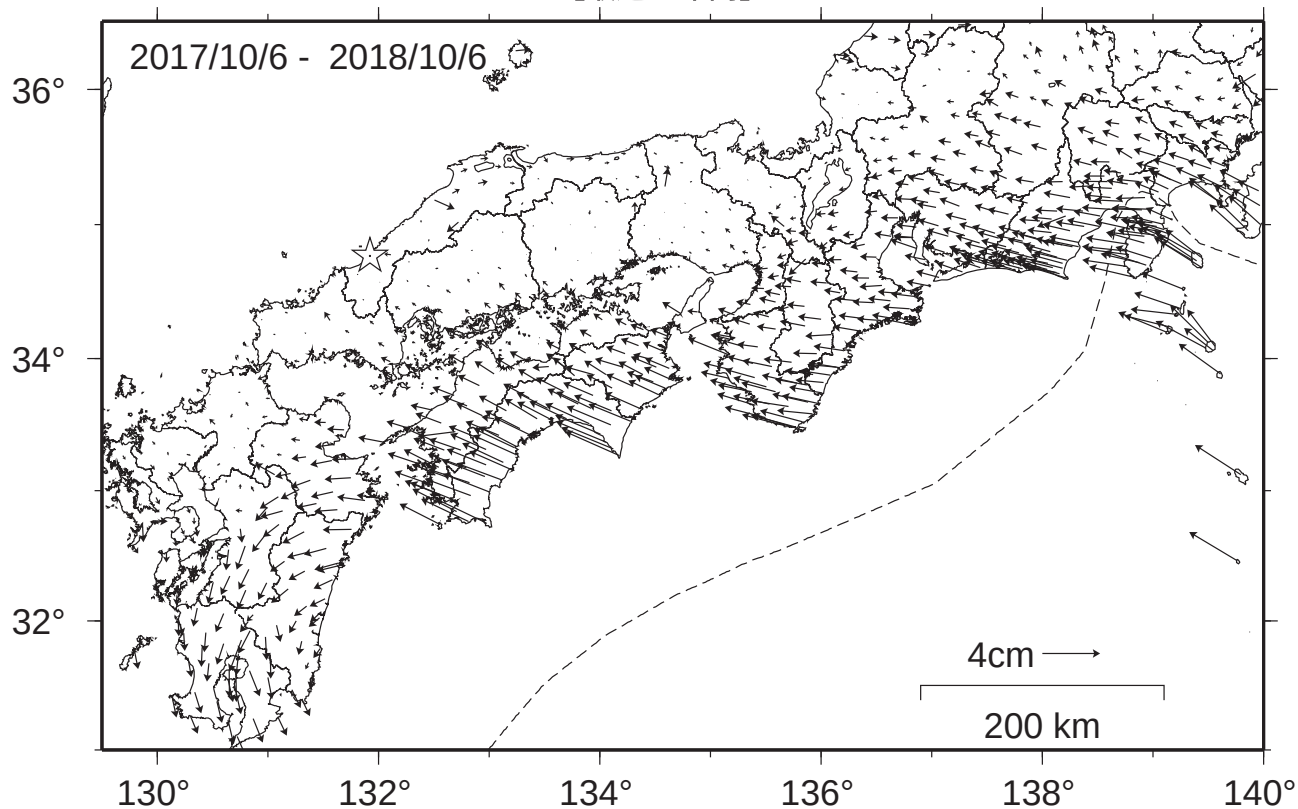


- ・ 最新のプロット点は 10/1～10/13 の平均。
- ・ 水準測量による結果については、最寄りの一等水準点の結果を表示している。

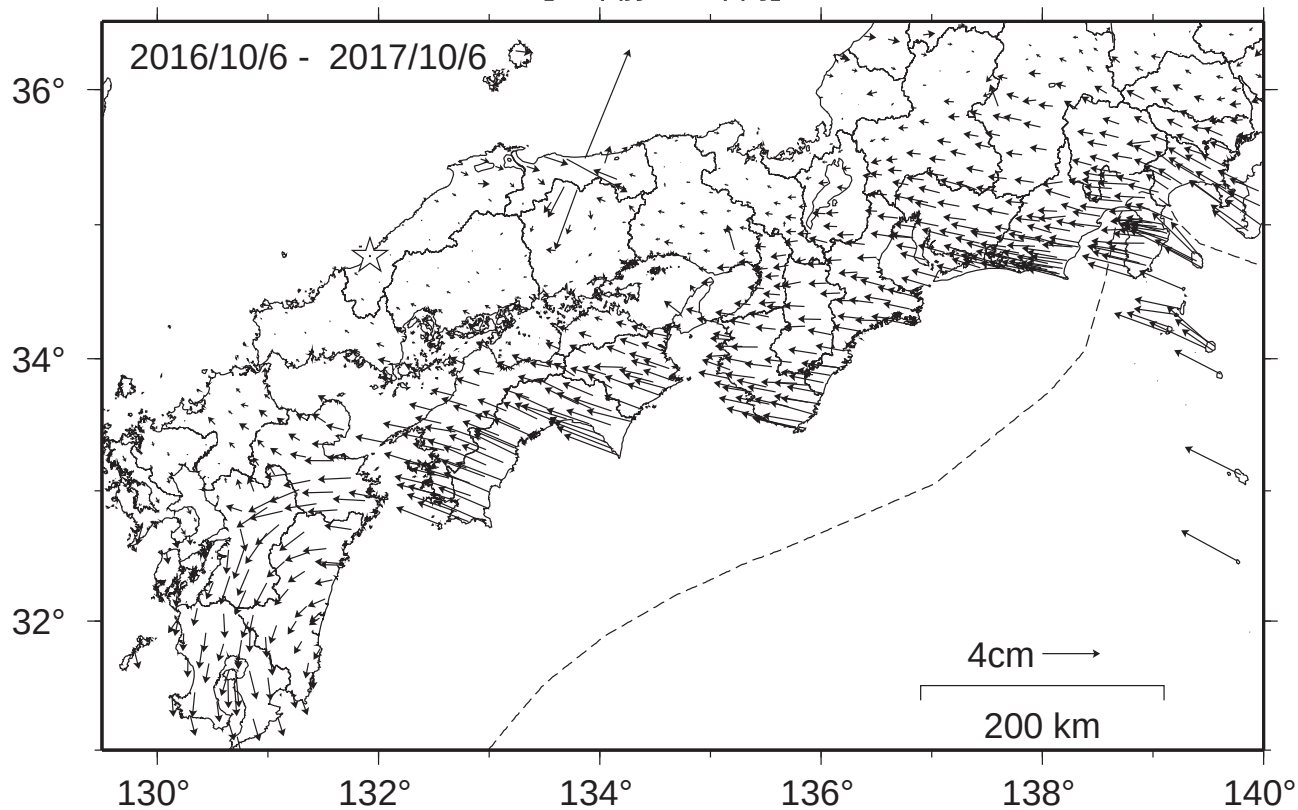


# 南海トラフ沿いの水平地殻変動【固定局：三隅】

【最近 1 年間】



【1 年前の 1 年間】



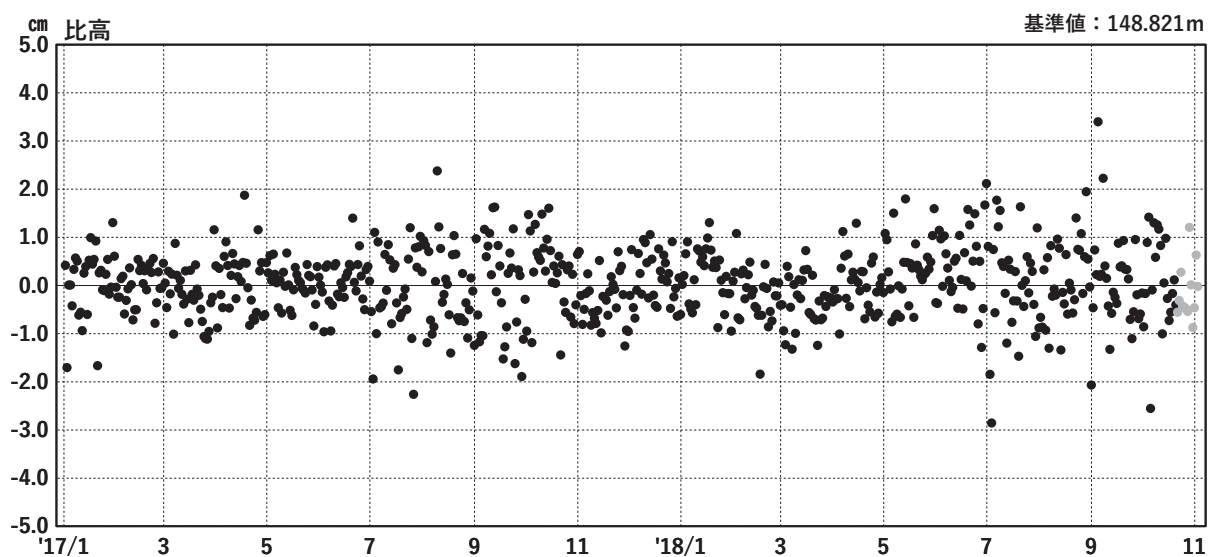
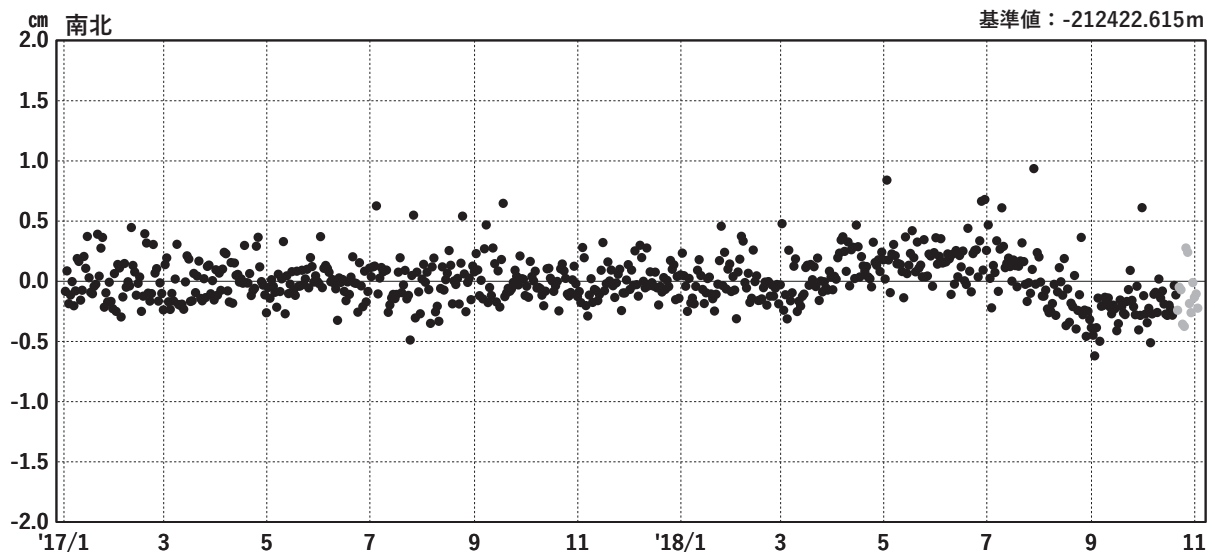
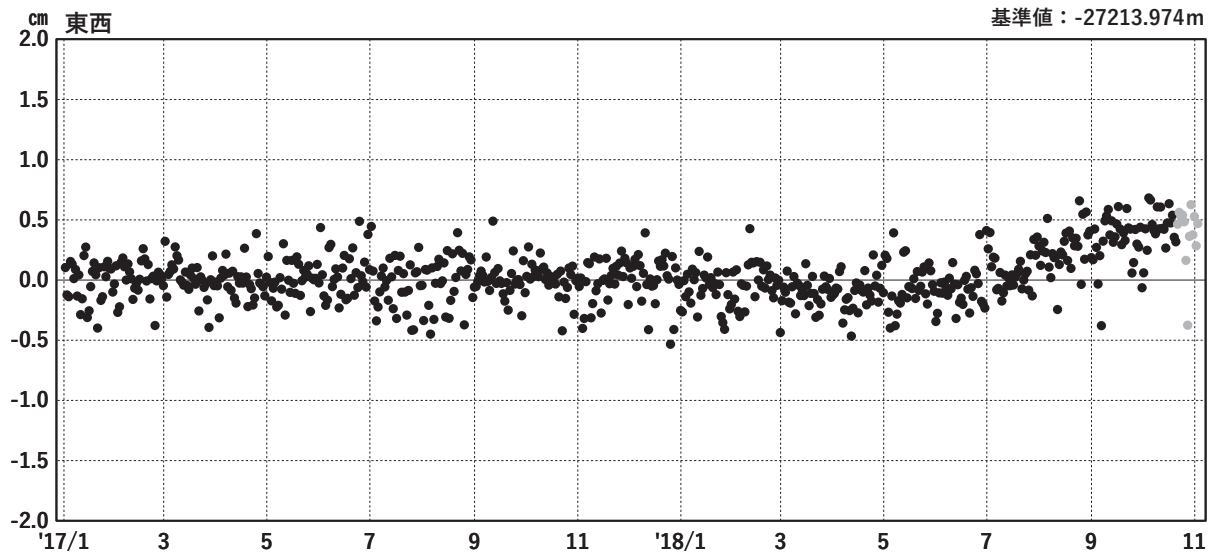
# 九州北部 G N S S 連続観測時系列 ( 3 )

## 1 次トレンド・年周成分・半年周成分除去後グラフ

期間: 2017/01/01~2018/11/03 JST

計算期間: 2017/01/01~2018/01/01

(3) 三隅(950388)→宇目(021082)



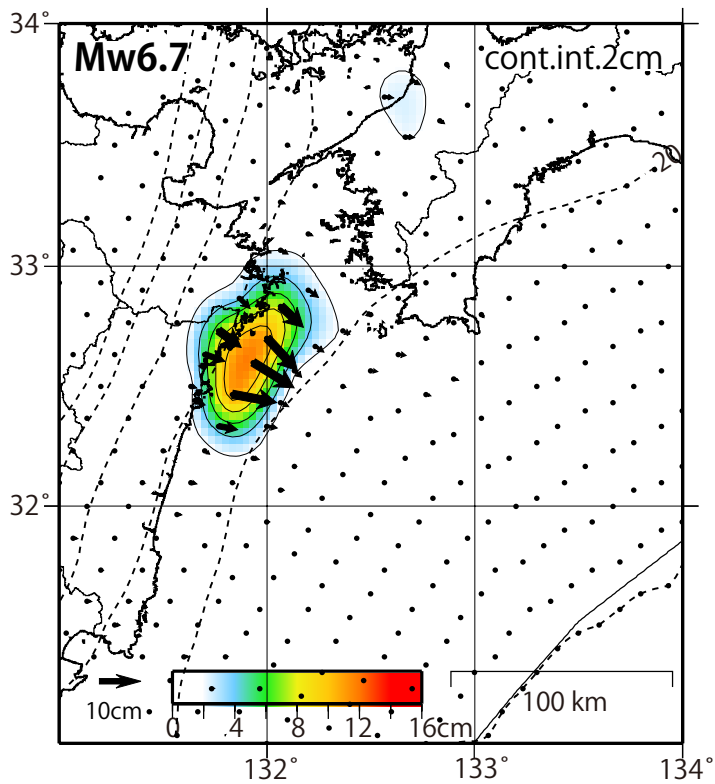
●---[F3:最終解] ●---[R3:速報解]

国土地理院

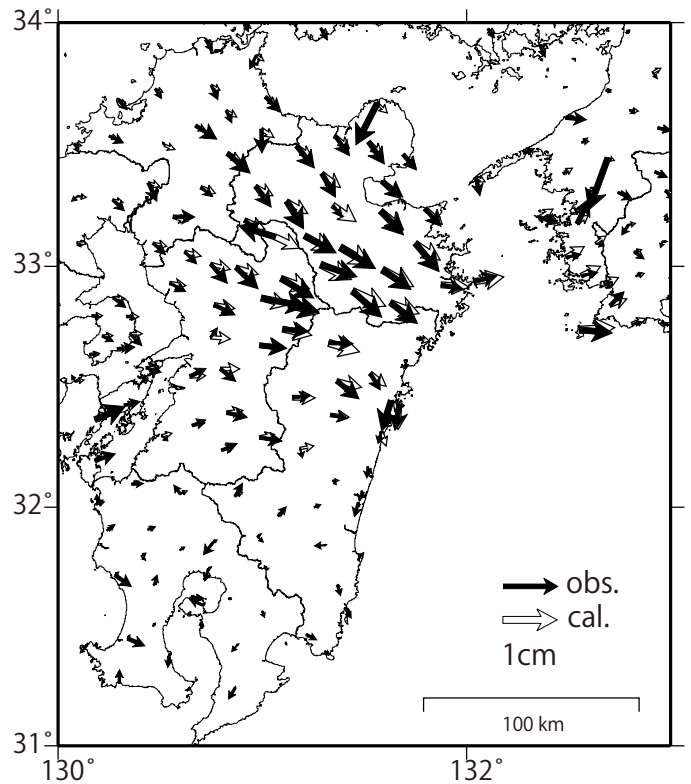
# 日向灘北部において推定される長期的ゆっくりすべり(暫定)

2018/6/1-10/30

すべり分布(推定)



観測値(黒)と計算値(白)



カルマンフィルターで平滑化した値

データ:F3解(～10/13)+R3解(10/14～10/30)

トレンド期間:2017/1/1-2018/1/1

黒破線:フィリピン海プレート上面の等深線(弘瀬・他、2007)